

2014年(平成26年)1月6日(月曜日)

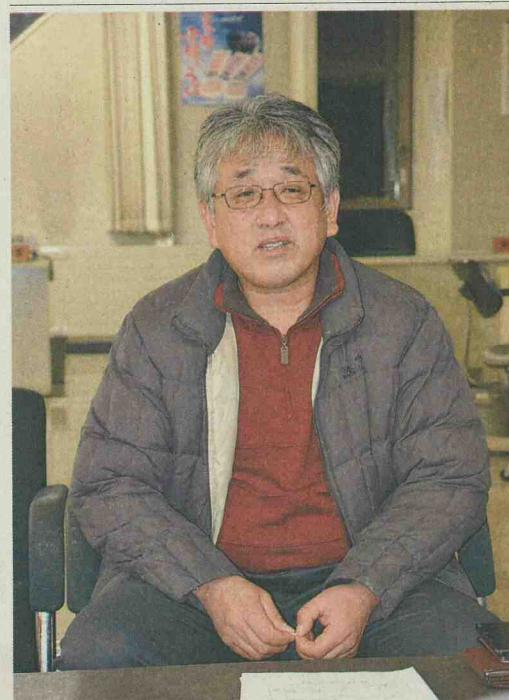
のは仁知 ちか牛乳の牛

## 市漁協 新組合長に嶋氏

# 混乱収束、再建を期待

小樽市漁協の新組合長に嶋秀樹氏(54)が正式に決まり、新たな指導体制が5日、スタートした。昨春から決算議案の否決や赤字拡大、役員総辞職などの混乱が続いており、組合員からは再建を強く望む切実な声が上がっている。

全役員10人の辞職を受けた昨年12月28日の役員選挙は、立候補者が定数と同数で、無投票当選となった。今月5日の理事会で、理事8人による互選の結果、新組合長に嶋氏を全会一致で選出した。常勤の新専務には、正己氏(64)が就任した。嶋氏は市内忍路出身



「漁業者との意思疎通が大切」と話す嶋組合長

の赤字削減に貢献した実績が評価され、道漁5月までの3年間、漁業者でつくる組織の忍路区長を務めた後、同漁協の監事になった。

多額の累積赤字を抱える小樽市漁協の新組合長に就任した嶋秀樹氏に、再建へのかじ取りなどについて、考え方を聞いた。

——2013年決算で累積5億円近い赤字

が見込まれています。

「まずは何が現状の問題なのか、組合職員、漁業者たちからしっかりと意見を聞きます。

再建は、場合によっては痛みを伴うこともあります。

「まだ、大きさや鮮度などをきめ細かく分類しなければならず、容易ではありません。アドバルーンを揚げても、結局はブランドを傷つける結果にならぬ可能性もある。組合

だけでは事業を進めることはできず、漁業者の話を聞きながら決めていきます」

——昨年の小樽しゃこ祭の運営から、市漁協が撤退しました。今

年はどうしますか。

「漁業者たちが、運営に参加したいという

のであれば、その方向

で、市漁協のある職員は「中長期計画を早く策定し、漁協運営を安

定化させてほしい」と要望。50代のある組合員は「小樽特産のシャコのブランド化を推し

て進めような、将来を見据えた前向きの運営をしてほしい」と期待している。

## 「漁業者と意思疎通」一問一答

——課題の一つに、シャコなどのブランド化を求める組合員との温度差があるので、

嶋氏は市内忍路出身